

平成28年熊本地震における  
余震情報と避難行動等に係る影響等の把握等  
に関するアンケート調査及び分析

2017年7月7日



# I. 調査実施概要

## 1. 調査目的

平成28年4月に発生した熊本地震（以下、平成28年熊本地震という）において、《余震に関する情報が被災者に適切に伝わっていたのか》、《余震に関する情報は被災者の避難行動などにどのような影響を及ぼしたのか》、《余震の情報源に対して被災者はどのような評価をしているのか》などを、地震後の被災者の行動や復旧・復興の様子全体像とあわせて明らかにする。

# I. 調査実施概要

## 2. 調査対象地域

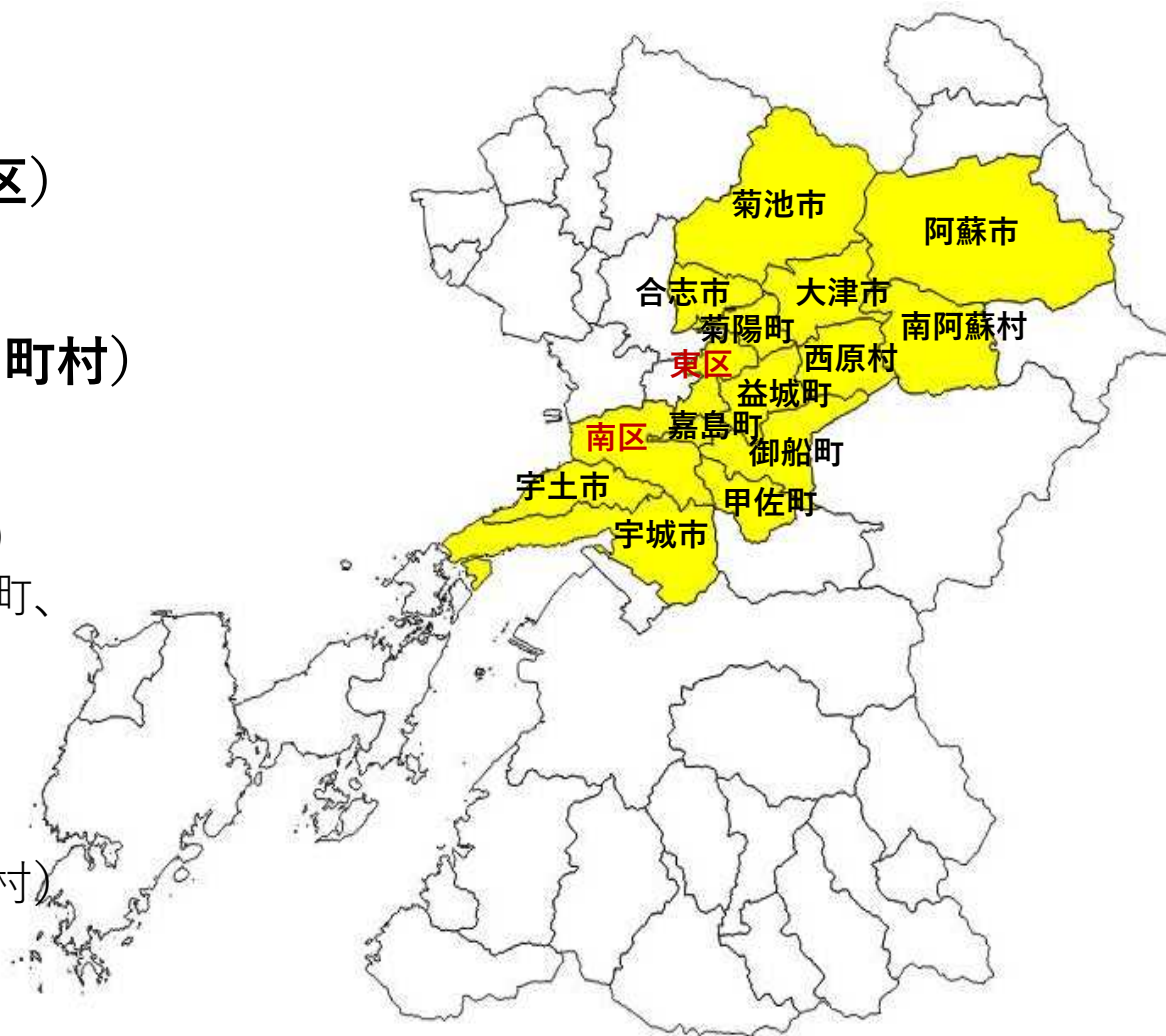
以下の2つの対象地域を設定

### ◆対象地域①：熊本市（2区）

- ・東区
- ・南区

### ◆対象地域②：郡市（13市町村）

- ・合志市
- ・菊池市
- ・菊池郡（菊陽町、大津町）
- ・上益城郡（益城町、嘉島町、御船町、甲佐町）
- ・宇土市
- ・宇城市
- ・阿蘇市
- ・阿蘇郡（南阿蘇村、西原村）



※ 強い揺れに襲われた地域、被害が特に大きかった地域を、①本震震度、②全壊家屋の割合、③半壊家屋の割合、④最大避難者数の割合を基にして熊本県内から選定

# I. 調査実施概要

## 3. 調査実施設計

①調査対象者	熊本市（2区）	18歳以上の男女個人（1,600人）
	郡市（13市町村）	18歳以上の男女個人（5,400人）
②抽出	熊本市	系統抽出法（2区の名簿を1台帳として取扱い）
	郡市	系統抽出法（13市町村の台帳を1台帳として取扱い）
③調査名	熊本地震における余震情報と避難行動等に関するアンケート	
④調査実施主体	文部科学省	
⑤調査方法	郵送配布・郵送回収法	
⑥調査期間	平成28年11月28日（月）～平成28年12月19日（月）	

## 4. 回収結果

	熊本市（2区）	郡市（13市町村）	合計
①配布数	1,600	5,400	7,000
②総回収数（率）	—	—	3,495（49.9%）
③有効回収数（率）	754（47.1%）	2,520（46.7%）	3,274（46.8%）

# I. 調査実施概要

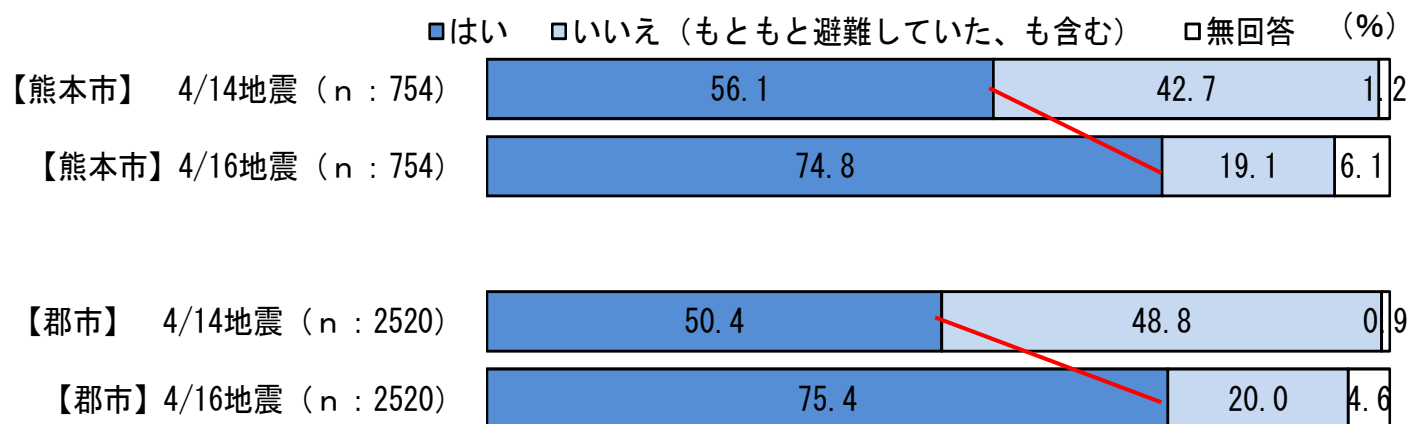
## 5. 調査内容

- 被災者の年齢、性別
- 家族構成
- 居住地
- 住居形態
- 人的被害
- 家族被害などの個人属性や被害属性
- 二度の震度7の地震における避難行動とその理由
- 気象庁の余震に関する情報の取得時期や取得後の行動
- 余震の情報源に対する評価、余震に対するリスク認知
- 被災者の長期的な避難行動と復旧・復興実感

## Ⅱ. 主要調査結果

### 1. 地震発生時の避難行動

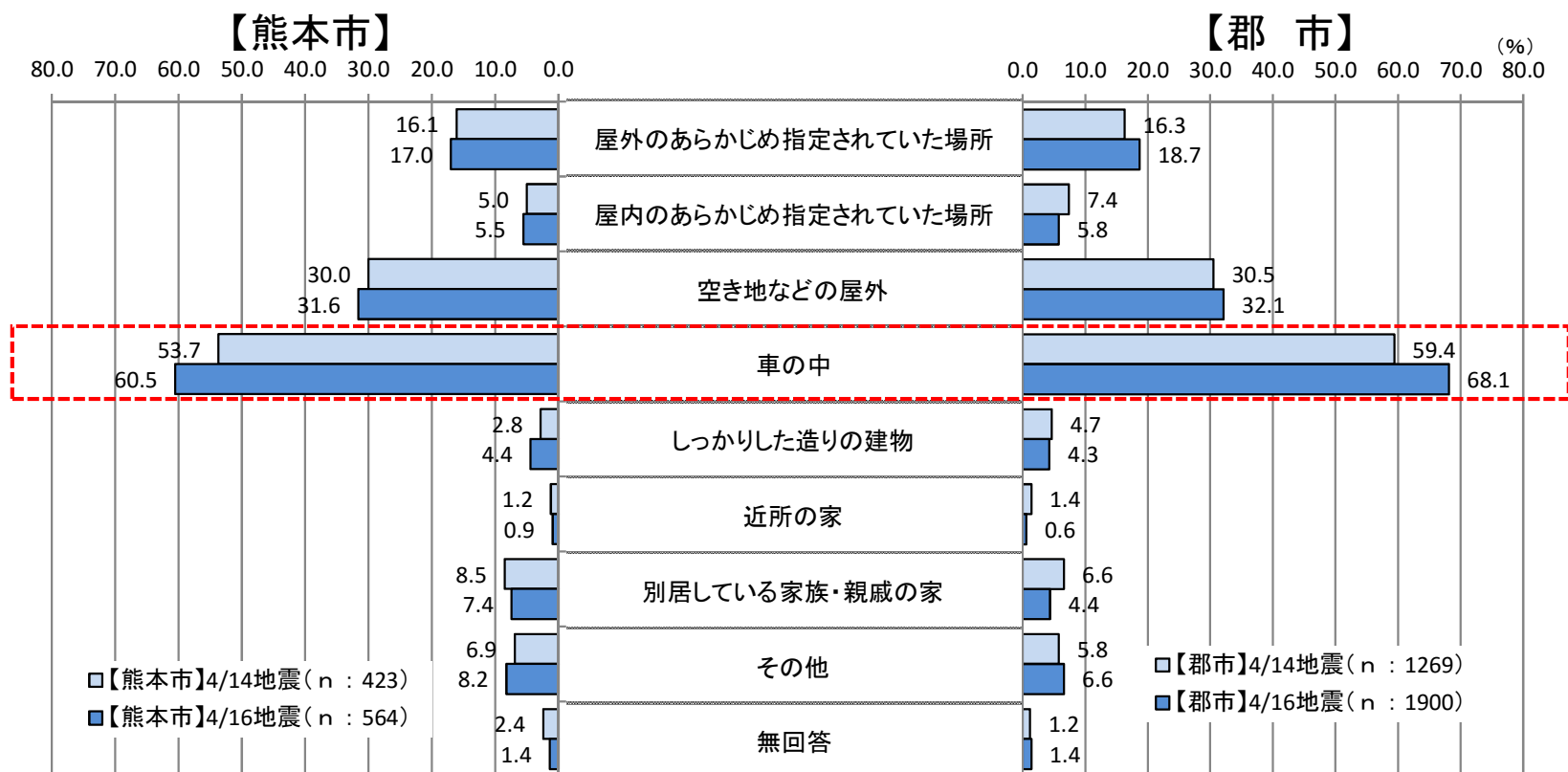
- 前震（4月14日21時26分発生した最初の強い地震）で半数が避難
- 本震（4月16日深夜1時25分発生）で4人に3人が避難  
⇒本震発生時：避難者の割合が大幅増加



## Ⅱ. 主要調査結果

### 2. 地震発生時に避難した場所

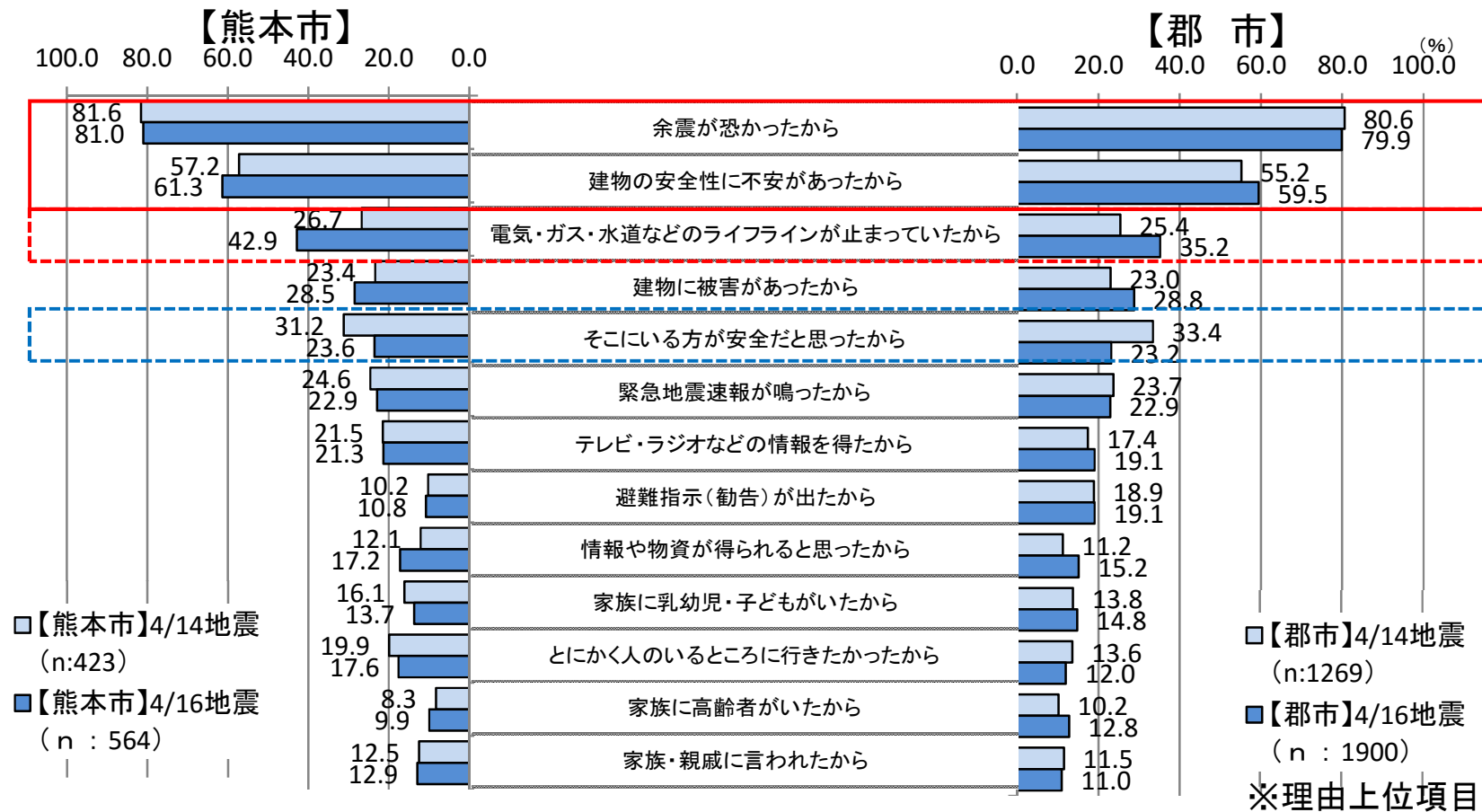
- 地震発生時、半数以上の人「車の中」に避難
- 本震発生時には前震発生時よりも「車の中」の割合が増加。



## Ⅱ. 主要調査結果

### 3. 地震発生時に避難した理由

- 避難した理由は「余震が恐かったから」「建物の安全性に不安があったから」等
- 本震発生時⇒「電気・ガス・水道などのライフラインが止まっていたから」が増加。「そこにいる方が安全だと思ったから」が減少。

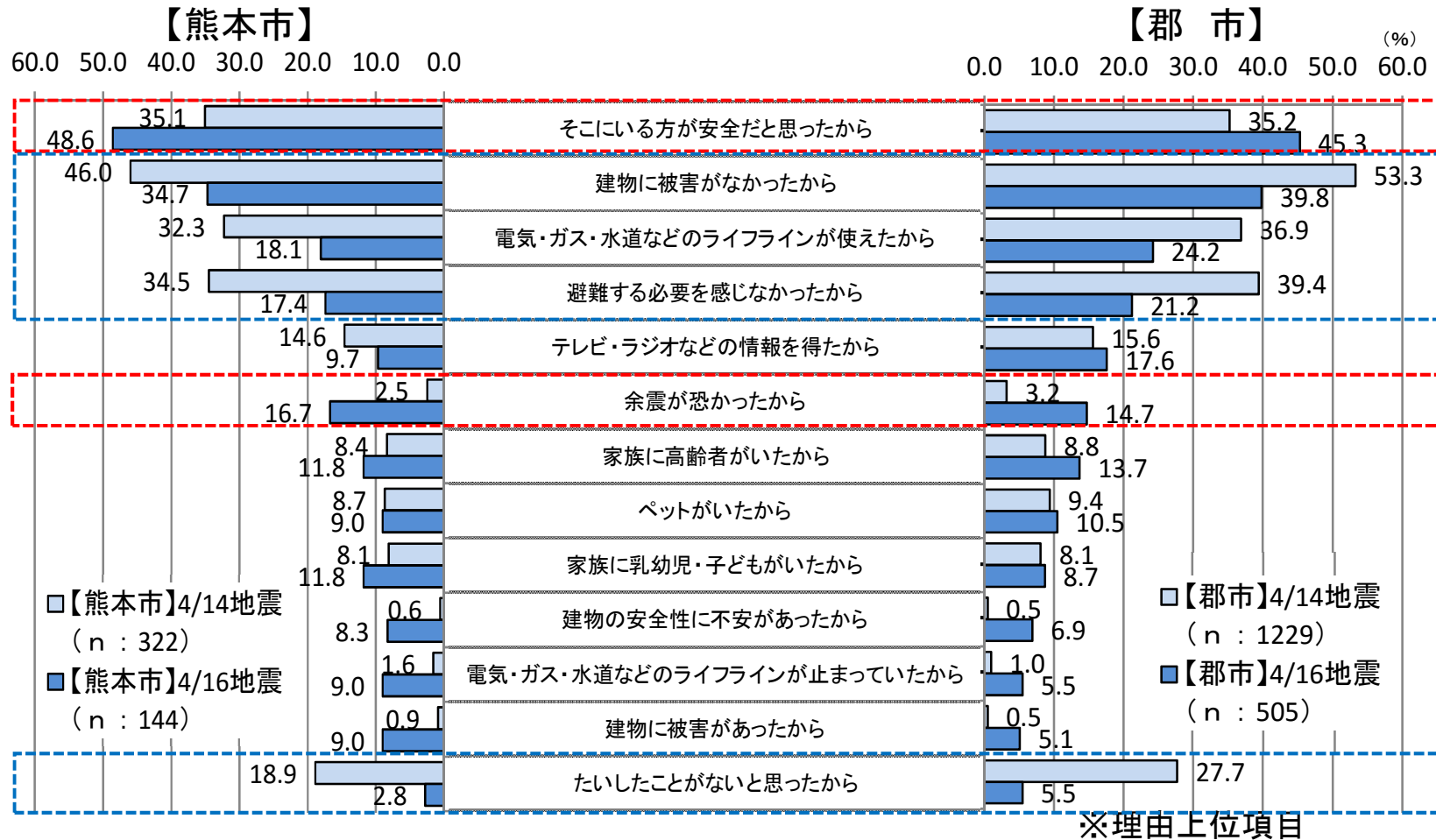




## Ⅱ. 主要調査結果

### 4. 地震発生時に避難しなかった理由

- 前震発生時⇒「建物に被害がなかったから」が1位。
- 本震発生時⇒「そこにいる方が安全だと思ったから」が1位。
- 前震発生時と本震発生時とで、避難しなかった理由に大きな差

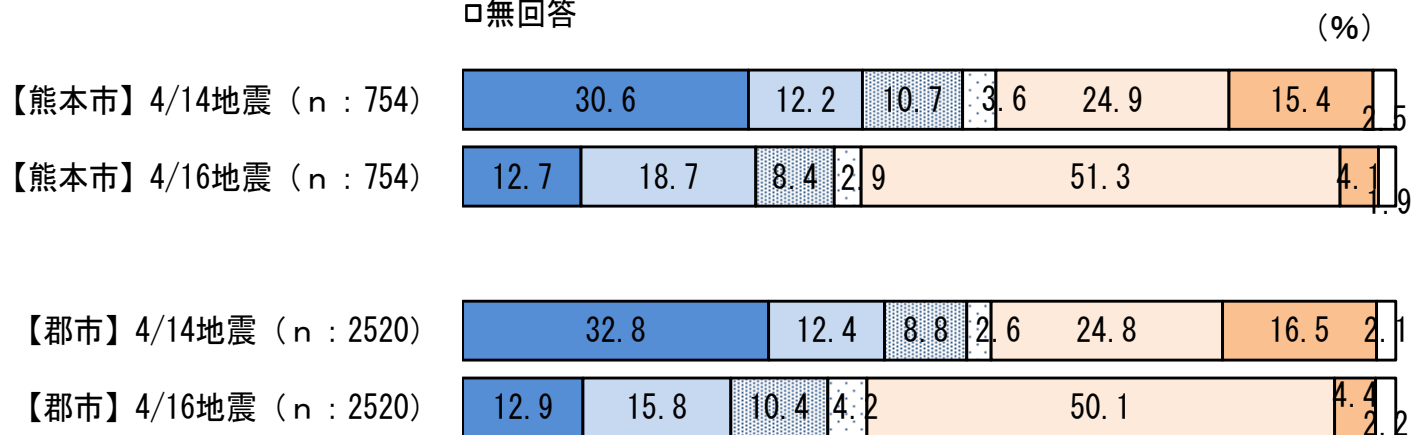


## Ⅱ. 主要調査結果

### 5. 地震後の余震発生の可能性に関する意識

- 前震発生時⇒「当分はもう起きないだろうと思った」が3割
- 本震発生時⇒「当分はもう起きないだろうと思った」が1割強に減少。「今日・明日にでも起こるかもしれないと思った」が5割に倍増。

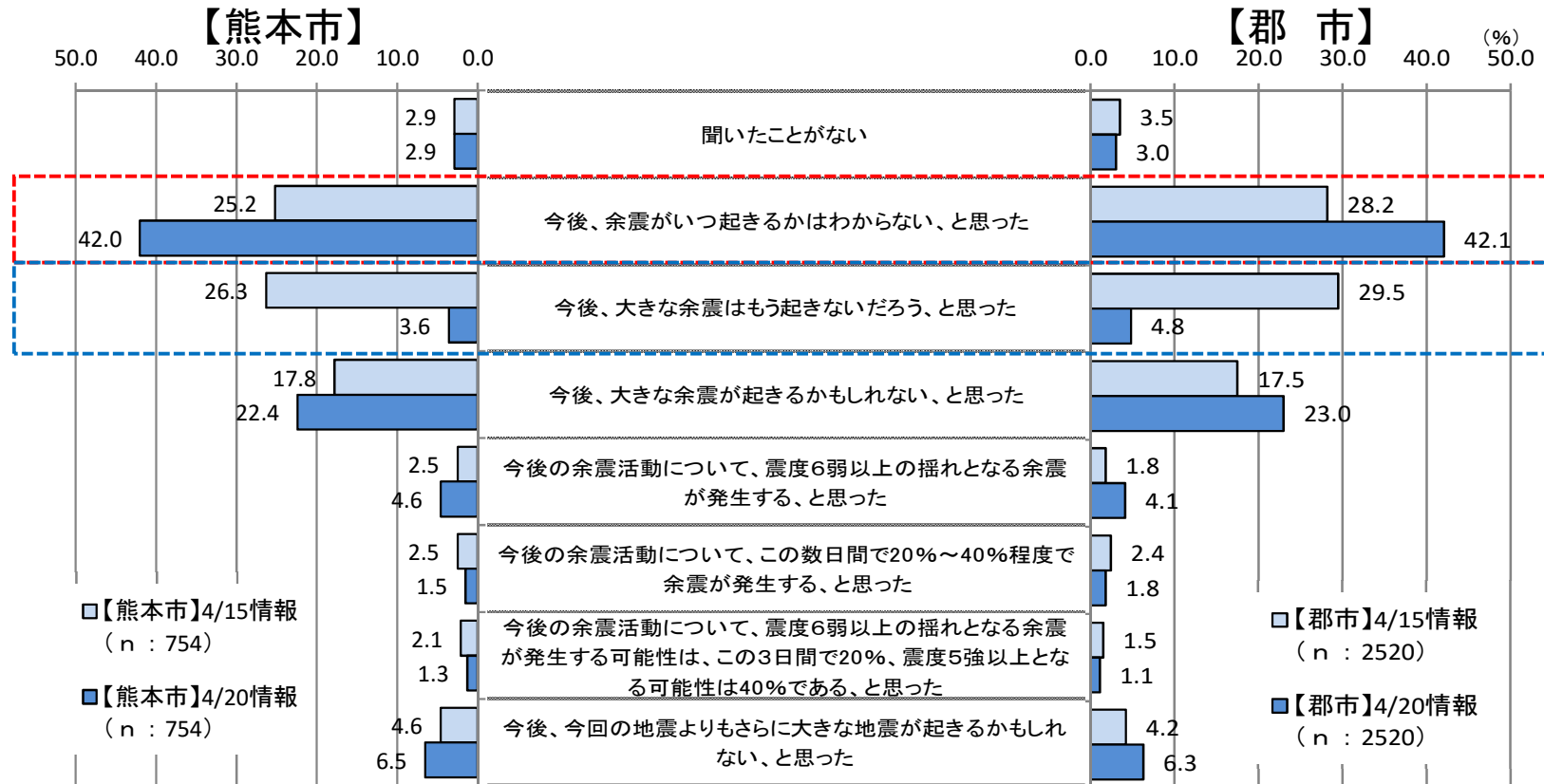
- 「当分はもう起きないだろう」と思った
- 「1ヶ月以内には起こるかもしれない」と思った
- ▣ 「1週間以内には起こるかもしれない」と思った
- 「3日以内には起こるかもしれない」と思った
- 「今日・明日にでも起こるかもしれない」と思った
- 余震のことは考えなかった
- 無回答



## Ⅱ. 主要調査結果

### 6. 余震に関する情報発表後の余震に関する意識

- 前震発生後、4月15日に発表された余震に関する情報後⇒「今後、大きな地震はもう起きないだろう、と思った」「今後、余震がいつ起きるかはわからない、と思った」が2割後半。
- 本震発生後、4月20日に発表された余震に関する新しい情報（余震発生確率発表のとりやめの発表）後⇒「今後、余震がいつ起きるかはわからない、と思った」が大幅増加

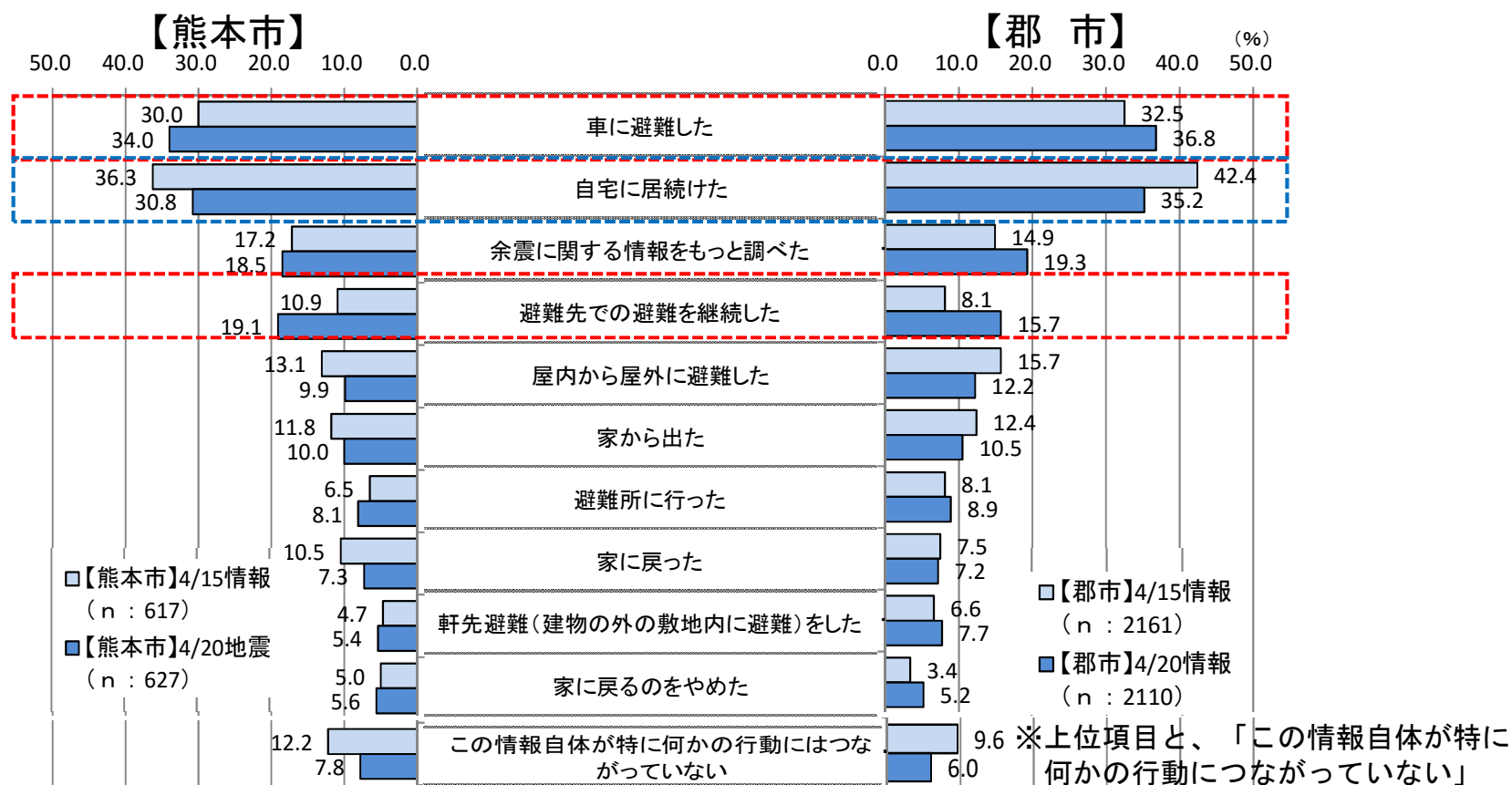


※「わからない・覚えていない」「その他」、無回答略

## Ⅱ. 主要調査結果

### 7. 余震に関する情報を聞いた後の行動

- 情報を聞いた後の行動は「自宅に居続けた」「車に避難した」等
- 4月20日の余震に関する新しい情報を聞いた後は、「車に避難した」が増加。「自宅に居続けた」が減少。

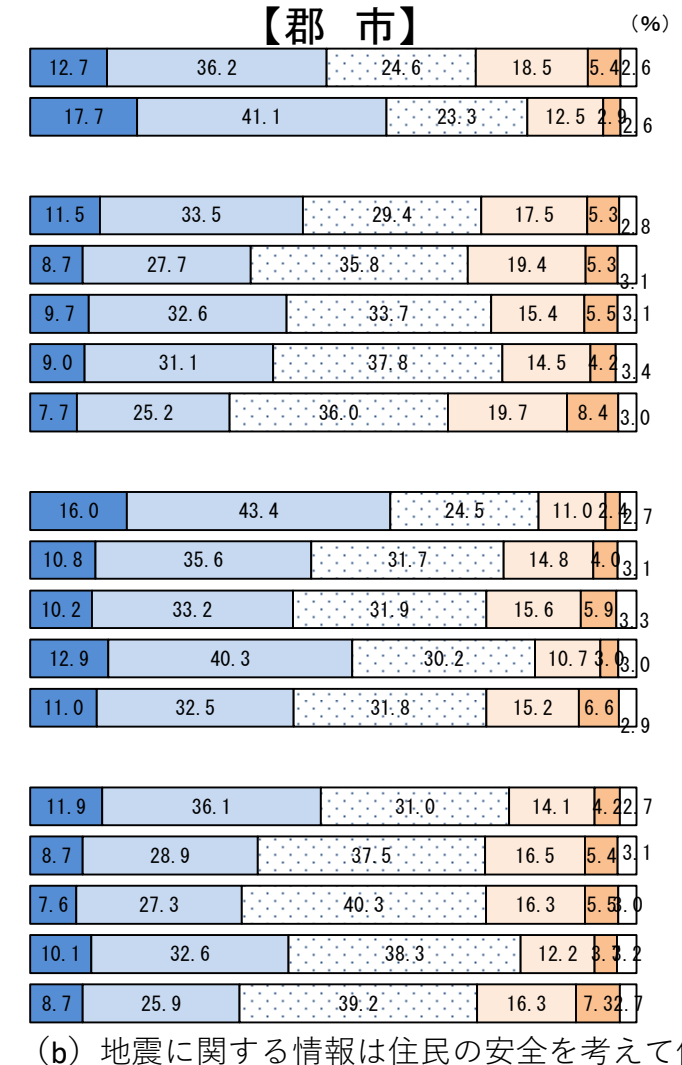
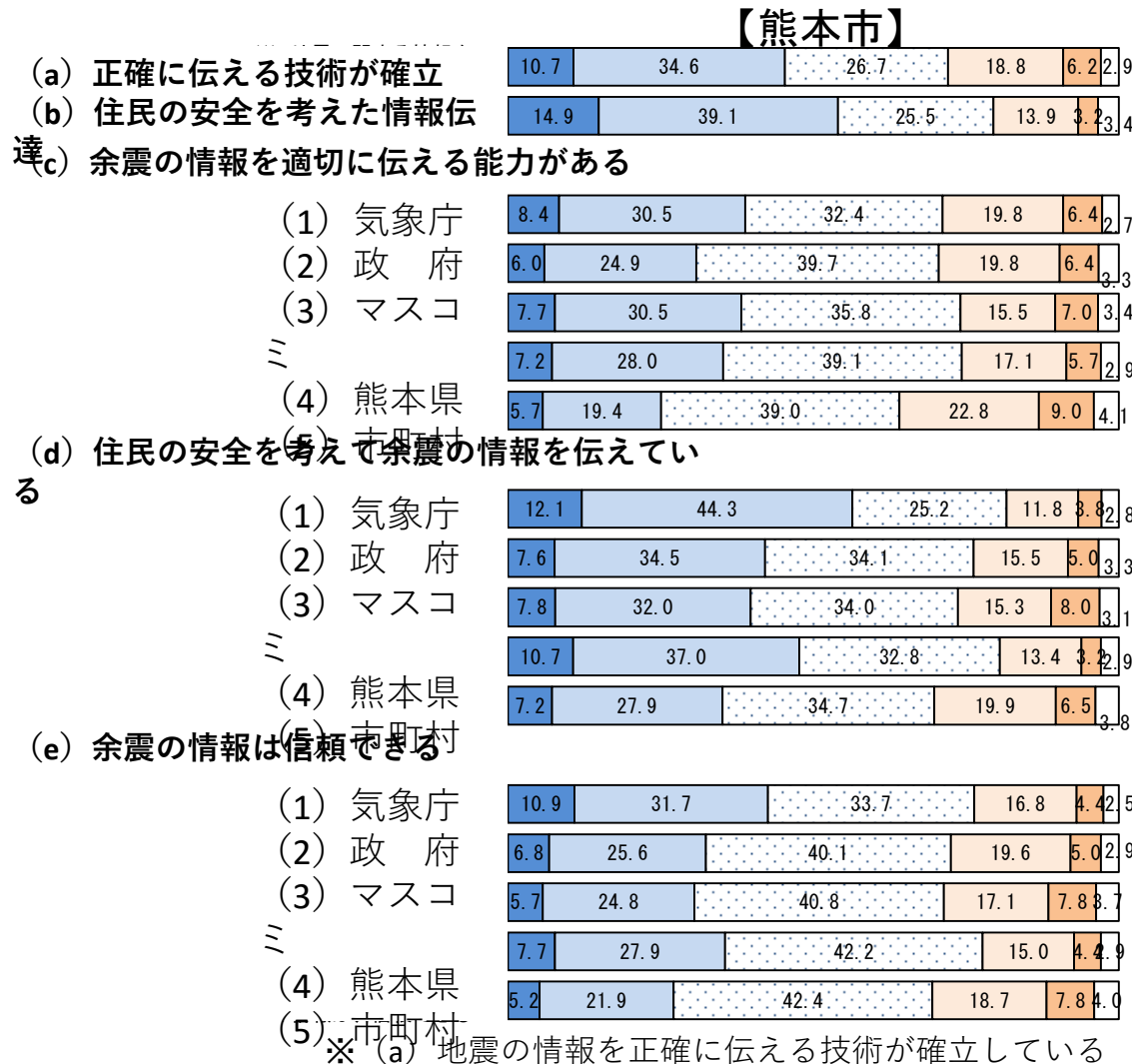


# Ⅱ. 主要調査結果

## 8. 地震・余震情報に関する評価

● 気象庁への評価が高く、市町村への評価が低い

非常にそう思う      ややそう思う  
あまりそう思わない      全くそう思わない  
どちらともいえない  
無回答



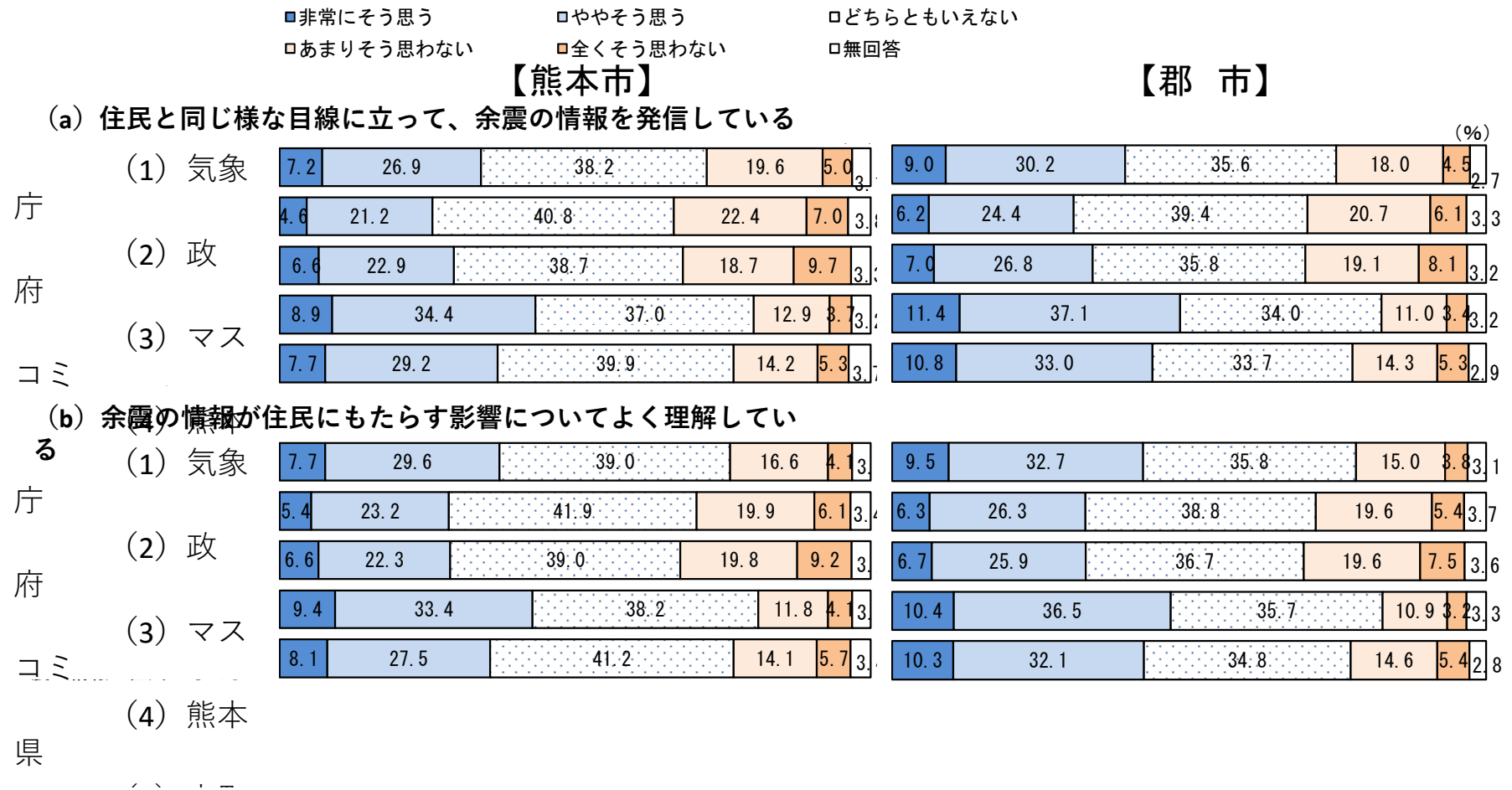
※ (a) 地震の情報を正確に伝える技術が確立している

(b) 地震に関する情報は住民の安全を考えて伝え

## Ⅱ. 主要調査結果

### 9. 地震・余震情報の印象

- 熊本県への評価が高く、政府・マスコミへの評価が低い。



## Ⅱ. 主要調査結果

### 10. 要点

#### リスク実感と避難行動

- 前震で半数が避難し、本震で4人に3人が避難した。
- 避難した理由は「余震が恐かったから」「建物の安全性に不安があったから」等。本震発生時には「電気・ガス・水道などのライフラインが止まっていたから」が増加。「そこにいる方が安全だと思ったから」が減少。
- 避難しなかった理由は、前震発生時と本震発生時とで大きく変化。前震発生時には「建物に被害がなかったから」が1位だったが、本震発生時には「そこにいる方が安全だと思ったから」が1位。
- 余震発生に関する意識は、本震発生時に「今日・明日にでも起こるかもしれないと思った」が5割に倍増し、「当分はもう起きないだろうと思った」が減少。

#### 余震情報と避難行動

- 4月15日に発表された余震に関する情報後は「今後、大きな地震はもう起きないだろう、と思った」「今後、余震がいつ起きるかはわからない、と思った」が2割後半だった
- 4月20日に発表された余震に関する新しい情報後に「今後、余震がいつ起きるかはわからない、と思った」が大幅増加。
- 情報を聞いた後の行動は、「自宅に居続けた」「車に避難した」等。4月20日の余震に関する新しい情報を聞いた後は4月15日の情報後に比べて、「車に避難した」が増加。「自宅に居続けた」が減少。

ご清聴ありがとうございました